

震災学んで防災に生かす

KSC 留学生新聞

〈発行〉
関西学院大学
総合政策学部
日本語V教室一同
〒669-1337
三田市学園2丁目1番地

「人と防災未来センター」取材

阪神大震災、東日本大震災では多くの犠牲者が出た。今年4月の熊本地震では立て続けに震度7の揺れに見舞われ、留学生も「地震列島」にすんでいることを実感する。同じような悲劇を繰り返さないためには、震災の恐ろしさを鮮明に訴え続けるだけではなく、防災と減災の教訓、知識を伝えていくことが重要だろう。関西学院大学総合政策学部日本語クラスで学ぶ留学生9人は、防災の歴史、復興に向けての知識を知ろうと、神戸市中央区の人と防災未来センターを取材した。学生らは震災をより身近で切実に感じることができた。震災を知らない世代も日々の生活の中で、震災や防災を意識することが大事である。今回の取材で得た成果を報告する。

【金信愛 ユン・テソク 曹勝宙 馬立国 畢博文】



ボランティアガイド(右端)の説明を聞く留学生

「壊れたヘルメット」の教え

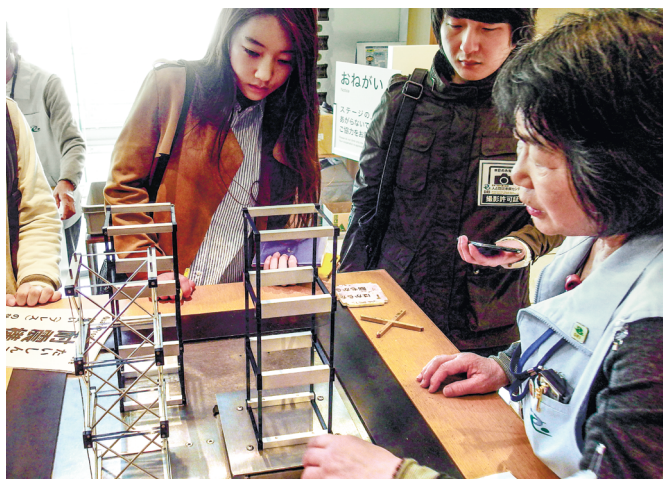
韓国から日本に留学して、これまで大地震を経験したことがなかった。人と防災未来センターでは、改めて阪神大震災が人々の生活にもたらした災禍のすさまじさを知った。また、大地震を経験したことのない人々に、どのようにしてその怖さを知ってもらうか、展示について様々な工夫が凝らされていた。

同センターでは、1階から5階までエスカレーターで観覧ができるように、配慮されていた。また、外国人に大震災について学んでもらうために英語、中国語、韓国語などのハンドブックを無料で配布して、阪神大震災に関する情報を発信している。

心のケア 重要性実感

人と防災未来センターで、ビデオや壊れた所の模型によって阪神大震災で被災したまわりの様子が再現されていたのを見て衝撃を受けた。半月前には熊本地震で震度7の地震が2回も相次いだ。どちらも地震体験を引きずる心的外傷後ストレス障害(PTSD)という病に陥った人が多く出て、治療の重要性を感じた。

PTSDになった人は地震を思い出させることに合うと、精神や肉体的苦痛を強く感じる。5月15日の読売新聞によると、地震



耐震構造の実験を取材する留学生(奥)

という。大震災によってかけがえない人を失った人々の悲しみは言うまでもない。しかし、私たちが震災の怖さを学んで知っておくことによって、遺族や被害者の悲しみを少しでも抱擁し、分かち合える。壊れたヘルメットはそのことを語っている。

【ユン・テソク】

SNS 役立つ機動性

人と防災未来センターの取材を通して、阪神大震災で被災した人々の写真や映像をみて、改めて防災の重要性を認識することができた。

特に阪神大震災の映像に比べ、東日本大震災は津波映像がリアルに伝わり情報伝達に大きな違いがあることに気づいた。阪神大震災は、テレビ、ラジオ、新聞が中心だったが、東日本大震災は、ツイッターに代表されるソーシャルメディアが大きな役割を果たしていたことだ。

ツイッターでは、避難情報に何が必要か、余震対策に何

【畢博文】
自分のようにテレビで情報を得た人は、事実と勘違いして動揺した人もいただろう。もしそれが外国人だったら真偽は見分けられないはずだ。

ソーシャルメディアは、いち早く出来事を把握できる良い点もあるが、意図的に間違えた情報を流す人々が存在するのも事実だ。

今回の熊本地震だけでは、規模などを伝え、街の人々にインタビューした情報が伝えられた。一方、ツイッターでは東日本大震災の経験からもっと役に立つ情報が提供された。

しかし、ソーシャルメディアは情報の拡散という利点があるものの、その情報に対する信頼性は確保できていない。自分は熊本地震発生直後、フジテレビの特別番組の中で「ネット情報では、熊本イオンモ

【金信愛】
存メディアで十分伝えられない部分をカバーする機動的な役割を担うことで今後

実験設備に深まる理解

日本は地震に対する防災教育・施設がよく整っている。今回訪問した「人と防災未来センター」は、阪神・淡路大震災と東日本大震災に関する展示資料や映像などを活用して、人々の防災意識を高めようとしていた。

その中で最も興味深くみたのは2階の「防災・減災体験フロア」にある「実験ステージ」だった。そこでは免震や液状化という地震による被害の原理を説明し、装置を使って実際に実験していた。また、そこで子供向けのパンフレットをもらった。地震のメカニズムや減災のための方法、防災マップなど貴重な情報が分かりやすく書かれていた。

またハンドブック「減災グッズを備えよう！チェックリスト」もあって、実際に

【曹勝宙】
「百聞は一見に如かず」という言葉がある。展示物や映像もいろいろと見て、地震の恐ろしさを心に刻み、地震に備えることができる。そんなきっかけを作りたいのである。

意識づけ中国にも必要

人と防災未来センターを訪れ、日本の耐震技術や防災知識を学んだ。日本人の防災意識は高く、地震について研究も格別に進んでいると感じた。

中国は日本と同じ、地震が頻発する国で、日本から学ぶ点が多いと思う。例えば、2008年の四川の大震災と東日本大震災と比べて、地震の強さは、東日本大震災の方が規模が大きかったが、倒れたビルも少なく、死亡した人も少なかった。なぜそんな大きな差が出てきたか、防災センターを訪れて、よく理解できた。

防災センターの2階は防災・減災をテーマとして展示されていた。防災知識を

【馬立国】
書いたパンフレットや地震による地盤の液状化の実験を通して、防災・減災は、建物の耐震性、地盤の構造など色々な面から考えることが大事であると分かった。